

かけはし

VOL.7
2024年
WINTER

SOO MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL



曾於医師会立病院からのお便り



新年のご挨拶



病院からの初日の出

院長
吉留 伸郎

新年明けましておめでとうございます。

皆さんご存じのとおり、今年の干支は「辰」です。手へんを付けると、「振」となります。辰年は「陽気動いて万物が振動、草木もよく成長して形がととのった状態」と言われており、辰年の今年、コロナから解放されて、まさに龍が雲を得て天を昇るかのよう、明るく活気ある年になってほしいと願いつつ、初日の出を拝みました。

しかし、「足元から竜が昇る」、「青天の霹靂」といったことわざをまさに地で行くような、驚くべき大地震が元旦の夕方、能登半島で起きました。日本人の多くは「日本中、いつ、どこで地震が起きても不思議ではない」と、頭の中では理解しているはずですが、それでも、何故か、不思議と、「元旦に大災害は起こらない」と知らず知らずのうちに思い込んでいたのではないのでしょうか。私自身、そういう状況を全く想定していなかったことを、その時になって初めて気づかさ

れました。被災地の状況が明らかになるにつれ、大変な被害を生じていることが徐々に判明してきました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に1日でも早く心休まる日が訪れることを切に願います。また現在もなお、被災者の救済と被災地の復興支援に尽力されている方々へ対し、深く敬意と感謝の意を表します。想定外のこと、1月2日の夕方にも東京・羽田空港で起きました。海上保安庁航空機（海保機）と日本航空旅客機（日航機）の衝突炎上事故です。いくつものヒューマンエラーが重なったようで、被災地支援に向かうはずだった海保機乗員が5人も犠牲となった大事故でした。そのようななか、日航機の乗客・乗員379人全員がわずか18分で脱出できたことはまさに快挙と言えます。乗員の日頃からの訓練が高く評価されると同時に、乗客、乗員、地上スタッフの冷静で真摯な対応により賞賛すべき奇跡がもたらされたのだと思います。

「自然災害」と「事故」、いずれも被害をもたらすものですが、似て非なるものです。「自然災害」は、それを正確に予測し、その発生を減らすことは今の科学では難しいでしょう。一方、「事故」の多くは、人の手で設計、運用された仕組みのなかで生じたヒューマンエラーの結果であり、その仕組みの設計や運用を改めることでその発生を減らすことができます。航空業界は以前より「失敗から学ぼうとする文化」があり、それによって構築された安全管理は、我々医療界が行う医療安全のお手本となってきました。失敗を偶然の産物だと放置せず、貴重な経験だと考える。失敗への責任追及や反省に終始するのではなく、失敗と誠実に向き合い、エラーの連鎖を断ち切る仕組みを講じることで、さらに安全な仕組みを作り上げる。そのような対応から解決への灯が生まれます。今後の航空業界の安全対策に期待するとともに、我々医療人も目の前の問題に新たな視点をもって対策を練り、改善することを怠ってはならないということを改めて考えさせられました。

曾於医師会立病院は曾於医療圏における整形外科疾患（骨折、関節・脊椎、リハビリ）、外科疾患（消化器、がん）、高齢内科疾患（肺炎、尿路感染症、脱血症、心臓疾患）、ペインクリニック等の診療に加え、

非常勤医による泌尿器科、乳腺外科、消化器内科、糖尿病内科、眼科、皮膚科、小児科（慢性）、婦人科、脳外科、呼吸器外科、腎臓内科等の専門外来と検診・委託検査を行っています。また、公的医療機関に準じて、地域医療支援病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院（DMAT）、鹿児島県がん診療指定病院、新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受けています。令和5年8月には在宅療養支援病院の認可も取得して、訪問診療にも力を入れることとしました。このような診療体制とその実績は当院の先輩職員方々と地域の皆様により築かれ、現在まで引き継がれてきたものです。その曾於医師会立病院が令和6年3月で開院40周年を迎えます。病院建物は老朽化し、地域を取り巻く状況も人口構成、交通網を含め、開院当時とは大きく変わりました。また、全国的な看護師不足・医師偏在問題に加え、令和6年4月からは「医師の働き方改革」が始まり、医師の時間外労働に制限が設けられます。マンパワー不足に拍車がかかる可能性はありますが、「医療を通じて地域に貢献する」という当院の理念に変わりはありません。各方面に協力をお願いしつつ、病院としての診療力を維持し、今年も職員一同、地域のために尽力して参ります。地域の皆様におかれましては、本年もご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



3年ぶり！ **大偶会** ※ を開催しました

新型コロナウイルス感染症の流行で休止していた『大偶会』が3年ぶりに復活しました。感染管理認定看護師より現在流行しているインフルエンザや新型コロナウイルス感染症に対する予防策や危険性を説明。3階病棟からはストーマ管理や皮膚トラブルの対処法について情報提供をしました。コンバテックジャパン株式会社様からは便利な商品のご紹介もあり、レクリエーションでは脳トレゲームを楽しみました。今後も大偶会を通して地域の方々により良い生活をしていただけるような発信をしていきます。是非興味のある方はご参加お待ちしております。



※大偶会とは…ストーマ患者家族会で年2回開催しています。

新ユニフォームに変わりました

総務係、医事係、診療情報管理室等の制服が変わりました。これまでのスカートからパンツスタイルに変更され、機能性や動きやすさにも優れ、仕事のモチベーションも上がると好評です！



笑顔と温かな心で、親身な対応を心がけてまいります。困りごとなどありましたら、お気軽にお声掛けください。
総務・医事 一同





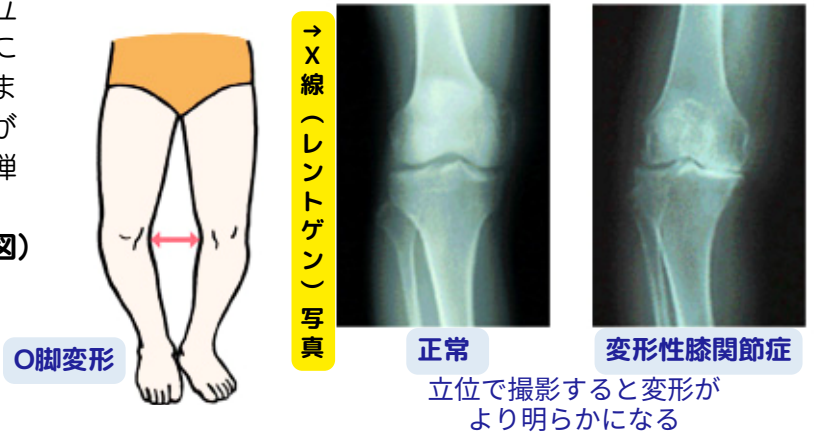
変形性膝関節症の話

副院長 整形外科
中島 隆之

明けましておめでとうございます。いつも当院の診療にご協力いただきましてありがとうございます。整形外科の中島隆之です。当科に多く紹介されるものの一つに高齢者の膝痛があります。

その多くは変形性膝関節症が要因となっております。変形性膝関節症の男女比は1：4で女性に多くみられ、高齢者になるほど罹患率が高くなります。主な症状は膝の痛みと水がたまることです。初期では立ち上がり、歩きはじめなど動作の開始時のみに痛み、休めば痛みがとれますが、正座や階段の昇降が困難となり、末期となると、安静時にも痛みがとれず、変形が目立ち歩行が困難になります。原因は関節軟骨の老化によることが多く、肥満や遺伝子なども関与しています。また、外傷などの後遺症として発症することがありますが、一般的には関節軟骨が年齢とともに弾力性を失い、使いすぎにより膝関節が変形します。

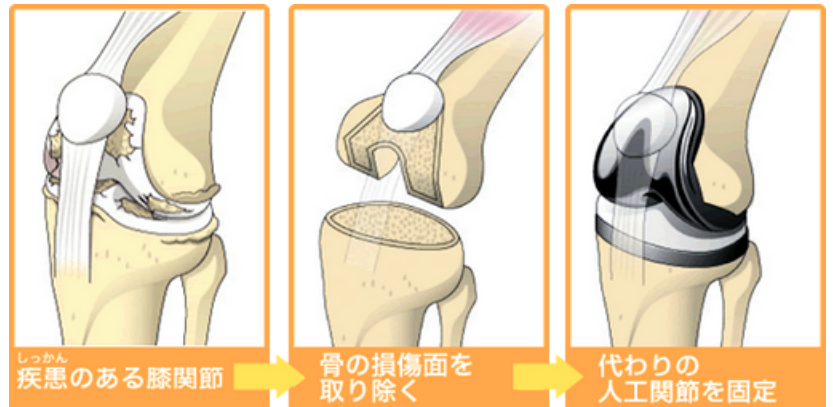
日本人は膝の内側が疼痛多く、レントゲン（右図）にて診断します。初期ではレントゲンでは診断できず、MRI検査を追加することがあります。



変形性膝関節症になってしまった場合は痛み止めの内服、湿布などの外用薬を使用、ヒアルロン酸などの膝関節内注射、リハビリテーションなどをまず行います。

それでも症状が治まらない場合は手術治療を検討します。手術としては、関節鏡手術、骨切り手術、人工膝関節置換術などがあります。

当院でもすべての手術が可能です。特に人工膝関節置換術は年間30例ほど施行しております。



予防には

- ①正座をさける
- ②洋式トイレの使用など洋式の生活
- ③ふとももの前の筋肉を鍛える（図）
- ④減量する



SLR運動（脚あげ体操）



佐久間 医師

中島 医師

大西 医師

膝痛で悩んでいる方がいればぜひ紹介していただければ幸いです。それ以外でも昨年4月から脊椎外科医の佐久間大輔先生に赴任していただいております。脊椎疾患も手術が可能ですので腰痛や坐骨神経などで困りの方も紹介してください。今後もこの地域に貢献できるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

感染対策向上加算連携カンファレンス

& 感染対策訓練

感染管理認定看護師
久徳 めぐみ

2023年12月23日（土）に地域の医療機関と連携カンファレンス、感染対策訓練を行いました。こちらは、連携医療機関と年2回のカンファレンス、および1回の訓練が必須となっています。

今年は各医療機関がそれぞれチームとなり、感染経路別に感染対策を考え、グループ内でディスカッションをするボードゲームを行いました。

ゲームのミッションは病院を感染から守ること！

制限時間内に最も多くの病院の感染を救った（Saveした）チームが勝利となります。問題（Case）に対して、必要な感染対策のアイテムを回答します。回答する時は手持ちのコインを賭け、コマをすすめたり、回答したり、楽しみながら感染対策についてディスカッションができました。感染対策を楽しく学べたことはもちろんですが、アンケートの中に「地域の医療機関の皆さんと顔を合わせ、職種問わずコミュニケーションがとれたことはとてもよかった。」と多くのご意見がありました。

これからも曾於医師会立病院は、地域の医療機関と連携して感染対策にも取り組んでいきます。

参加された医療機関スタッフの皆様ありがとうございました。



私のかけはし！



広報誌『かけはし』にちなんだ職員イチオシの橋を紹介するこちらのコーナー♪今回ご紹介するのは、眼鏡橋です。長崎市の中島川に架かる石造二連アーチ橋で、1634年に架けられました。洪水で損壊する度に修復し、1960年（昭和35年）に国の重要文化財に指定されました。

写真提供は医事課H主任でした。

職員募集！



曾於医師会立病院では、現在下記の職種について一緒に働く仲間を募集しています。

- ・医師（内科等）
- ・看護師（准看護師含）
- ・看護師助手
- ・介護福祉士
- ・リハビリ助手
- ・診療情報管理士
- ・病院給食調理スタッフ
- ・事務職員

お問い合わせ先 ☎070-7664-8594（曾於医師会中央総務部）
見学も随時行っております。お気軽にお問い合わせください。



公益社団法人 曾於医師会

曾於医師会立病院

Soo Medical Association Hospital

〒899-8212 鹿児島県曾於市大隅町月野894

☎ 099-482-4888

ホームページ：https://soo-hp.com/

Eメール：sisikai@blue.ocn.ne.jp

